

若手研究者をリーダーとした大型研究プロジェクトの立上げ支援
～枠組みづくりからメンタリングまで～

○李鎔璟^{※2}、浜本俊一^{※1}、櫻井俊秀^{※1}、田崎泰孝^{※2}、平井信義^{※3}

山口大学 大学研究推進機構 ^{※1} 産学公連携センター、^{※2} 知的財産センター、^{※3} URA 室

1. はじめに

山口大学大学研究推進機構（旧 産学公連携・イノベーション推進機構）では、これまでに学内の若手研究者を主対象とした研究支援活動を積極的に行ってきた（若手イノベーション創出促進事業など）。本稿では、30代前半の若手教員をリーダーとした大型研究プロジェクトの立上げに関する支援事例を紹介する。

2. 研究支援について

(1) 支援体制

図1に本事例における支援体制の概要を示す。

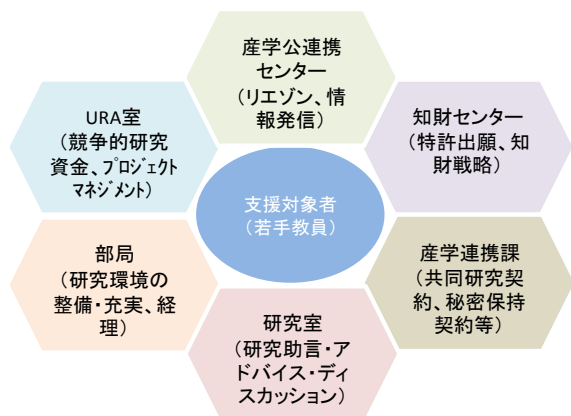


図1. 支援体制

(2) 支援対象者（Y 教員、32 才男、助教）

2008 年博士取得。教員になってから 5 年目。専門分野は高分子合成。これまでに企業との共

同研究実績・経験無し。2010 年までは産学連携、知的財産に関する活動の実績・経験無し。

(3) 研究環境

大学院理工学研究科の化学分野の研究室に所属。同研究室の教授、准教授のサポート・協力を得て研究できる環境、専門分野（高分子合成）の研究設備は整っている。但し、プロジェクト化を図っている分野（二次電池）の分析機器や研究環境は未整備。学生の配属は、無し。

(4) 研究テーマの設定

専門の高分子合成により、リチウムイオン電池等の二次電池の電解質として応用可能な独創的な新規高分子材料を開発。革新的な次世代の二次電池の開発を目指している。

(5) 支援内容

- ①競争的研究資金の獲得（申請書ブラッシュアップ、プレゼン力アップ、研究戦略立案等）
- ②研究成果の権利化（特許出願、知財戦略等）
- ③シーズ・情報発信（新技術説明会、展示会等）
- ④リエゾン（FS 研究、共同研究、契約支援等）
- ⑤プロジェクトマネジメント（実施計画、進捗把握、関係者間の情報共有、書類作成支援等）

3. 大型研究プロジェクトの立上げ

これまでの支援結果の概要を図2に示す。

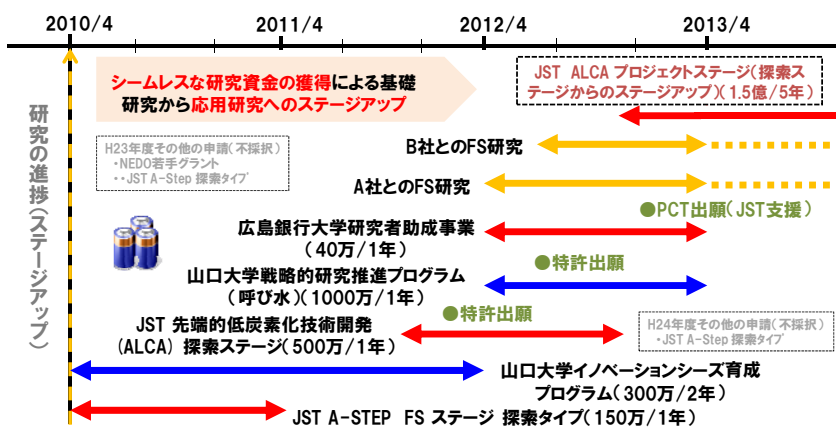


図2. これまでの支援結果の概要（競争的研究資金獲得状況等）

2012 年 10 月、JST 先端的低炭素化技術開発（ALCA）のプロジェクトステージ（探索ステージからのステージアップ）（1.5 億円/5 年間に採択され、次世代の革新的二次電池の開発を目指した研究プロジェクトがスタートした。